

E-1 動詞由来複合語の統辞構造 — 日本語・日本手話における観察から

浅田 裕子

昭和女子大学*

要旨

日本語の①修飾詞+動詞から成る複合語(例:空拭き)と、②内項を語の外で認可し、対象項・場所項を語に含む複合語(例:箱詰め)は、連濁・アクセントに関して緊密性を示すことが知られている(Yumoto 2010 等)。これら二タイプを統一的に捉える統辞分析 $[[\sqrt{R}, \sqrt{R}]v]$ が提案されているが(長谷川・大関 2020, Tatsumi 2021)、語根(\sqrt{R})同士が併合した構造では、①②の複合語がもつ音韻・意味の非対称性を捉えることができない。本研究では、まず、①②タイプの複合語が、日本手話においても日本語と同様、ともに緊密的で非対称的な音韻特性をもつことを示す。次に、複合語①②に加えて、これまで議論の少なかった並列タイプの複合語③(例:飲み食い)を取り上げ、③についても、モダリティの異なる両言語が類似の音韻特性をもつことを示す。最後に、これらの議論を踏まえ、①②と③の複合語が異なる統辞構造をもつと主張し、観察された事実を説明できる統辞分析の方向性を示唆する。

1. はじめに

✓ 動詞由来の複合語

表 1 日本語の動詞由来複合語

意味特性	並列 (A)	修飾詞+動詞 (B)	場所項・対象項+動詞 (C) <内項を語の外側で認可>	内項+動詞 (D) <内項を含む>
例	行き来・貸し借り 飲み食い	ペン書き 薄切り	(みかんの)箱詰め (布地の)色付け	窓ふき・手紙書き 石蹴り・ボール投げ

(cf. 影山 1993, Sugioka 2002, Yumoto 2010, 長谷川・大関 2020)

✓ 本研究の主な目的

(1) 手話言語特有の音韻特性に着目しながら、動詞由来複合語 **Types B-C** (表 1) が、日本手話でも日本語と同様に、音韻緊密性・二つの要素間の非対称性を示すという観察を提示し、日本語のこのタイプについて提示された先行研究での提案(2)の問題点を指摘する。次に、複合語 **Types B-C** と、従来研究で議論が少なかった並列接続の複合語 (**Type A**) を取り上げ、日本語と日本手話の両言語において、**Type A** と **Types B-C** の複合語が異なる音韻特性をもつことを示す。最後に、これら二タイプの複合語は異なる統辞構造をもつと主張する(本発表では **Type D** の分析は議論しない)。¹

(2) 語根併合分析 $[[\sqrt{R}, \sqrt{R}]v]$ (長谷川・大関 2020, Tatsumi 2021)

(3) 本研究の依拠する理論的枠組み

分散形態論 (*Distributed Morphology*)

(Halle & Marantz 1993, Harley 2009)

* 本研究にご協力いただいた日本手話ネイティブサイナーの方々、草稿の段階で貴重なコメントをくださった長谷川拓也氏に深くお礼申し上げます。本研究は科研費 JP19K00559・JP19H01259 の助成による。

¹ 日本語の「食べ歩く」のような屈折を伴う V-V 複合についても、本発表では議論しない。

2. 先行研究

✓ 手話言語の複合語研究

(4) 手話言語における複合語（音韻）研究

Klima & Bellugi (1979), Vercellotti & Mortensen (2012) 等（アメリカ手話）； Santoro (2019)（イタリア手話・フランス手話）； Tkachman & Meir (2018)（イスラエル手話・Al-Sayyid Bedouin 手話）； 乗松他 (1998), Asada, Nomi & Shimojima (2022)（日本手話）

(5) 手話言語の記述なし

音声言語 (98 言語) Bauer (2017) *Compounds and compounding*. CUP.

音声言語 (67 言語) Lieber & Stekauer (2009) *Oxford handbook of compounding*. OUP.

✓ 複合語類型研究

(6) 一般に複合名詞の内部には次の三つの関係がみられる。

- a. 並列関係 b. 修飾関係 c. 項関係 (影山 1993:193)

(7) *Classification of compounds* (Di Sciullo 2005, Scalise & Bisetto 2009)

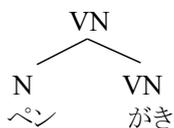
表 2 Scalise & Bisetto (2009)

	coordinate	attributive	subordinate
例	mother-child	redskin	tree eater
	Bosnia-Hrzegovina	high school	bookseller

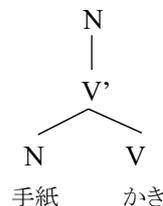
✓ Sugioka (2002): 「修飾と編入」の統辞構造 (Types B and D)

(8) a. 修飾詞+動詞 ‘ペン書き’

b. 項+動詞 ‘手紙書き’



(Type B)



(Type D)

✓ Yumoto (2010), 由本 (2015): 「場所項・対象項を語の内部に含む複合語」 (Type C)

(9) a. みかんの箱詰め、問題の棚上げ、トラックの車庫入れ

b. スープの味付け、布地の色付け、山菜の灰汁抜き (由本 2015:82)

(10) [...] these VCs show the same phonological behavior as the adjunct VCs. (Yumoto 2010:2394)

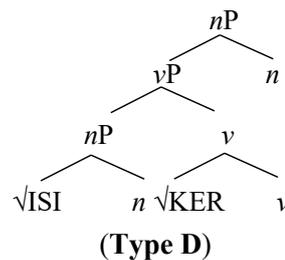
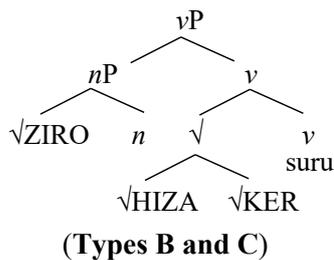
表 3 日本語の動詞由来複合語と音韻特性

意味特性	修飾詞+動詞 (B)	場所項・対象項+動詞 (C) <内項を語の外側で認可>	内項+動詞 (D) <内項を含む>
例	ペン書き・薄切り ひざ蹴り・空拭き	(みかんの)箱詰め (布地の)色付け	窓ふき・手紙書き 石蹴り・ボール投げ
音韻特性	連濁あり・平板アクセント		連濁なし・起伏アクセント

✓ 長谷川・大関 (2020): 「内項が外側・内側で認可される複合語」の統辞構造

(11) a. 内項が外側で認可 ‘ひざ蹴り’

b. 内項が内側で認可 ‘石蹴り’



✓ Tatsumi (2021): N_{adjunct}-V compounds vs N_{argument}-V compounds

(12) a. ‘水拭き(ぶき)’, ‘値引き(びき)’ [n [v [√Y_N √X_V] v] n] (Types B and C)

b. ‘窓拭き(ふき)’ [n √Y_N [n [v √X_V v] n]] (Type D)

3. 日本手話の動詞由来複合語

✓ 調査方法

本研究では、Asada, Nomi & Shimojima (2022) (ANS) の調査結果に加え、新たに日本手話母語話者 4 名 (東京出身者) を対象に、個別調査を実施した。Type A と Types B-C に該当する動詞由来複合語 13 語 (手話辞典²からの抽出とインフォーマントと確認の上、筆者が提示した例) の容認度について、イラストと手話による説明で回答を得た ((15),(19)-(21)は筆者が提示)。すべての例の容認度は、4 名の総意に基づく (但し、(17b)/(18b)/(20b)については 4 名中 1 名が「まあ容認できる」という判断であった。)

✓ Type D (内項+動詞) 音韻特性

内項を表す第一要素と動詞を表す第二要素の間に、音韻的緊密性はない。第一要素と第二要素がそれぞれ辞書形に手が 2 回繰り返すサインをもつ場合、複合語になっても重複は保持される (ANS)³

- (13) a. FLU(aa)^CHECK(bb) ‘インフルエンザ検査’ <ともに重複は保持される>
 b. PEACH(aa)^TRADE(bb) ‘桃販売’ <ともに重複は保持される>

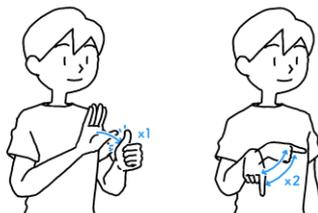
✓ Type B (修飾詞+動詞) 音韻特性 音韻的緊密性・非対称性を示す。

◆ 連続表出:

第一要素と第二要素がそれぞれ辞書形に手が 2 回繰り返すサインをもつ複合語の場合、Type B では非対称的に第一要素のみが音韻弱化する (ANS)。

- (14) a. PROVISORY(a)^WORK(bb) ‘アルバイト’ <非対称的音韻弱化>
 b. HELP(a)^TEACH(bb) ‘助教授’ <非対称的音韻弱化>

図 1 ‘助教授’



(ANS: 276)

² 全日本ろうあ連盟「わたしたちの手話学習辞典 I」(2019)・「わたしたちの手話学習辞典 II」(2016)

³ 同じ手の動きが繰り返す音韻重複のリズムを ab のような英小文字斜体で示す。

4. Types B-C 語根併合分析の問題

(2) 語根併合分析 [[√R, √R] v] (長谷川・大関 2020, Tatsumi 2021)

✓ Types B-C の音韻・意味の非対称性

(22) (2)の構造では、複合語 **Types B-C** を構成する二つの要素の音韻・意味の非対称性を捉えることができない。このタイプの複合語の線状順序には明確な非対称性があり、同時表出が可能な日本手話においても、**Types B-C** の主要部は第一調音器官である利き手によって表出される。

✓ Type A の音韻特性

(23) 語根併合分析は、(24) のような意味的に並列な要素をもつ複合語 **Type A** を生成する可能性も示唆するが、日本語・日本手話とも、**Type A** は **Types B-C** と異なる音韻特性を示す (Kageyama 1982, 秋永 2014 など)。この差異をどう説明できるかという問いが残る。

◆ 日本語 (ピッチの下がることを 1 で表記する。アクセント表記は秋永(2014)に基づく。)

(24) a. 行き1来 b. 貸し1借り c. のび1ちぢみ <連濁なし・起伏アクセント>

◆ 日本手話^{7,8}

同時表出: **Types B-C** と異なり、同時表出は容認されない。(25b),(26b) のように非利き手の保持を含む連続表出が必要である。(非利き手の保持については Asada (to appear) も参照)。

<p>(25) a. *H1: PRAY H2: BELIEVE b. H1: PRAY BELIEVE H2: PRAY----- ‘信仰’</p>	<p>.....</p>	<p>(26) a. *H1: GUARD H2: ATTENTION b. H1: ATTENTION GUARD H2: ATTENTION ----- ‘警戒’</p>
---	--------------	---

表 5 日本語・日本手話の動詞由来複合語音韻特性

	意味特性	並列 (A)	修飾詞+動詞 (B)	場所項+対象項+動詞 (C)
日本語	例	行き1来・貸し1借り	ペン書き・薄切り	箱詰め・色付け
	音韻特性	連濁なし・起伏アクセント	連濁あり・平板アクセント	
日本手話	例	PRAY^BELIEVE ATTENTION^GUARD	HIDDEN^STEAL HEART^RECALL	COLOR(a)^ADD(bb) BOX^PACK
	音韻特性	同時表出不可	同時表出可能・非対称性を示す	

5. 動詞由来複合語の統辞構造

✓ 本発表の主張

(27) 日本語・日本手話の動詞由来複合語 **Type A** と **Types B-C** は、異なる統辞構造をもつ。**Type A** を構成する二つの要素は、音韻的に非緊密的・連続的である。これに対して、**Types B-C** を構成する二つの要素は、音韻的には緊密性・非対称性を示す。従来研究で提案された語根同士の併合構造(2)では、これらの特性を捉えることは難しい。

⁷ 連続表出については、ANS を参照。Type A では、第一要素・第二要素とも、辞書形と比べ音韻弱化を示す(例:READ(a)^WRITE(b) ‘読み書き’)。

⁸ 本研究では、(25)-(26)以外に、次の Type A 複合語例についても調査を行い、同様の結果を得ることができた。: PRAY^MOVE ‘精進,’ PRAY^RECALL ‘追悼’。尚、(25b),(26b)の例のような非利き手の保持の観察は、高嶋由布子氏(私信)のご指摘による。

✓ 統辞構造 (on-going)

表 6 日本語と日本手話の動詞由来複合語 **TypesA-C** の統辞構造

複合語タイプ	Type A	Types B-C
意味特性	対称的・外心的	非対称的・内心的
音韻特性	非緊密的・連続的	緊密的
統辞構造		

(28) **Type A**

二つの要素間にカテゴリーライザーが介在し、Phase を形成する (Arad 2003)。Phase 境界があることで音韻の非緊密性を捉えることができる。

(29) **Types B-C**

第二要素(主要部)が局所的に内的併合する (Omune 2020)。第一要素と第二要素の二つのコピーはすべて1つの phase 内にとどまり、phase のレベルで同時に解釈部門へ移送 (transfer) される。これにより、要素間の音韻的緊密性・非対称性を捉えることができる。

6. 結論と今後の研究課題

本研究は、音声言語では観察できない手話言語特有の音韻特性の観察を踏まえ、日本語のみならず、日本手話においても、複合語の並列タイプ (**Type A**)、修飾詞+動詞から成る複合語 (**Type B**)、そして内項を語の外で認可し対象項・場所項を語の内部に含む複合語 (**Type C**) の三タイプの動詞由来複合語類型が成立することを示した。音声言語・視覚言語というモダリティの差を越えて、意味的に異なる **Type A** と **Types B-C** は、異なる音韻特性を示すことが確認された。この観察事実を踏まえ、本研究では、これら二タイプの複合語は、異なる統辞構造をもつと主張し、記述された特性を説明できる統辞分析の方向性を示唆した。

本研究が表 6 で提示した二タイプの複合語は、それぞれ等位接続構造と付加部構造をもつ。これらの統辞構造については、長い歴史をもつ膨大な研究成果があり、現在まで活発な議論が続いている。例えば、最近の研究 Chomsky (2021)では、等位接続構造と付加構造の生成に関して、(30) の *Form Sequence* (シークエンス形成) という操作が提案されている。今後は、果たして複合語形成において、シークエンス形成を適用する必要があるかどうかなども視野に入れ、そのような操作を援用しない試案である(表 6)の説明的妥当性を検証する予定である。

$$(30) \text{ Form Sequence } \langle \&, X_1, \dots, X_n \rangle$$

(Chomsky 2021: 31)

引用文献

- 秋永一枝.(編) 2014. 『新明解日本語アクセント辞典第二版 CD 付き』(第3版, 2016) 東京:三省堂.
- Asada, Y. To appear. Weak hand holds of number signs in Japanese Sign Language. *Proceedings of of the fifty-seventh annual meeting of the Chicago Linguistic Society*. The University of Chicago.
- Asada, Y., Nomi, Y. & Shimojima, K. 2022. Compounds in Japanese Sign Language: Associate Professor teaches twice. *Japanese Korean Linguistics* 28: 273–286.
- Arad, M. 2003. Locality constraints on the interpretation of roots: the case of Hebrew denominal verbs. *Natural Language & Linguistic Theory* 21: 737–778.
- Chomsky, N. 2021. Minimalism: Where Are We Now, and Where Can We Hope to Go. *Gengo Kenkyu* 160: 1–40.
- Di Sciullo, A. M. 2005. Decomposing compounds. *SKASE Journal of theoretical linguistics* 2(3): 14–33.
- Halle, M. & Marantz, A. 1993. Distributed morphology and the pieces of inflection. *The View from Building 20: Essays in Linguistics in Honor of Sylvain Bromberger*, eds. K. Hale & S. J. Keyser, 111–176. Cambridge, MA: MIT Press.
- Harley, H. 2009. Compounding in distributed morphology. *Oxford handbook of compounding*, eds. R. Lieber & P. Stekauer. 129–144. Oxford: Oxford University Press.
- 長谷川拓也・大関洋平. 2020. 「分散形態論と日本語の動詞由来複合語」日本言語学会第161回大会.
- Kageyama, T. 1982. Word formation in Japanese. *Lingua* 57(2-4): 215–258.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』東京:ひつじ書房.
- Klima, E. & Bellugi, U. 1979. *The Signs of Language*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 乗松秀暢 他. 1998. 「日本手話の複合語形成における動きの弱化と消失」日本手話学会第24回大会予稿, 42-45. 日本手話学会.
- Omune, J. 2020. Immediate-local MERGE as pair-Merge. *Coyote Papers* 22: 12-21. University of Arizona Linguistics Circle.
- Santoro, M. 2018. Compounds in sign languages: The case of Italian and French Sign Language. PhD., EHESS, Paris.
- Scalise, S. & Bisetto, A. 2009. The classification of compounds. *Oxford handbook of compounding*, eds. R. Lieber & P. Stekauer. 34–53. Oxford: Oxford University Press.
- Sugioka, Y. 2002. Incorporation vs. Modification in deverbal compounds. *Japanese/Korean Linguistics* 10: 495–508.
- Tatsumi, Y. 2021. Structural restrictions on sequential voicing in Japanese N-V compounds. The 29th Japanese Korean Linguistics Conference.
- Tkachman, O. & Meir, I. 2018. Novel compounding and the emergence of structure in two young sign languages. *Glossa: A Journal of General Linguistics* 3(1): 136.
- Vercellotti, M. L. & D. R. Mortensen. 2012. A classification of compounds in American Sign Language: An evaluation of the Bisetto and Scalise framework. *Morphology* 22: 545–579. DOI:10.1007/s11525-012-9205-1.
- Yumoto, Y. 2010. Variation in N-V compound verbs in Japanese. *Lingua* 120(10): 2388–2404.
- 由本陽子. 2015. 日本語複合名詞の意味解釈メカニズム. 言語文化共同研究プロジェクト: 自然言語への理論的アプローチ 1: 79–88.